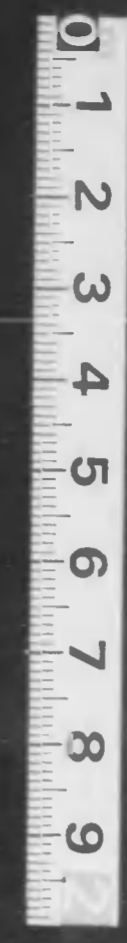


週寫
報眞

編輯部報情閣内
ンセ十・號一廿第・日六月七

事變一周年



日支一國運 北平

我が駐 七師 軍は 幸 北平 四 方 對 峙

北平の空を破つて遙か

支那事變一周年

一年前の七夕祭の宵、北京郊外露橋野に夜のしじまを突き裂いて飛んだ銃弾。一閃は、世界歴史に大波紋を投じた。以来、察哈爾作戦、京漢津浦作戦、山西作戦、或は黄河北岸掃蕩、中支方面の作戦、徐州作戦と決然起つた皇軍には天敵も荒野も、黄塵も、塵まで潰かる泥濘も、灼熱も酷寒もその前進をばらみ得ず、抗日全軍またその前進をばらみ得ず、いまや敵の第二の首都漢口が皇軍の武威におのき揺く時、この一年、わが皇なる血潮は支那の大地に一瀉、二瀉としみ込んではや緑の芽が色とりどりに頭をもたげて来た。

北京も南京も明らかな建設に輝く音はこぼれ、新民主主義は抗日の悪夢を破つて人々に明るい笑ひを贈らした。

皇恩のもと、われに捕へられた哀れ抗日捕虜軍勢は更生の陽光に浴し、官撫班は活躍し、あの通州は明朗化した。新支那を背負つて新民學院に学ぶ明日の若き官吏の姿に、或は生活學校の女學生の潑刺とした笑顔に——こゝにみる一連のゲラフは、このひと歳の偉い芽生えである。

事變勃發の夜孤々の聲をあげた赤ちゃんもかく丸々と育つてゐる。新生支那よこの赤ちゃんと共に健やかに、正しく強く建つて。

(昭和十二年七月七日生れの赤ちゃん
 東京市豊島區長崎町一ノ一九四〇
 春山哲郎君 六月廿三日 第十四
 全東京乳幼児検査會場撮影)

撮影 内閣情報部

進め國産 銃後の護り



陸軍保護自動車
 商工省標準型自動車
 テーゼル自動車
 薪瓦斯自動車
 其ノ他各種自動車



川崎自動車 東京
 社會式株 車動自

怒濤の一年

支那船舶交通遮断

海軍省海軍軍務普及部

帝國海軍に依る支那船舶交通遮断は支那の所謂長期抗戦の命脈を斷つ爲支那の公私船舶の交通を全支沿岸に亘つて遮断せんとする手段である。滿々たる闘志を孕んで夙夜各地に果敢な進軍を續ける海軍航空隊、はた陸軍の先驅として陸上に進軍する海軍の精銳、陸軍の軍々しさに比べて、延々二千八百五十里に亘る大陸沿岸を遮断する封鎖部隊の勞苦はまことに筆舌に記すものがある。荒蕪地を風の日も大湖を雨の夜も荒々たる封鎖をくつとにらみ続ける乗組員の忍耐と無言の威厳こそ、無敵軍の輝かしい戦果にはかり知れざる大きな貢獻を爲して居る事實を奉饗一周年の今日深く銘記し、艦上將士の努力に對し感謝することとした。



撮影・海軍省

南支海を制する〇〇艦
甲板に立ちてモンスーンに差
漕がれる果しなき海の彼方を
眺める將士の胸中や如何に。

洋上に集結漂泊する航行遮断部隊。
必要な準備を整へて更に次の移
動に準備せんとす。

陸上準備のために、〇〇艦から
派遣される部隊。武装艦に乗り、
乗員に送られ將に舷側を離れんと
す。





多くの民衆を艦上に泣かせ、なほひびき響く抗日の絶叫。蔣介石

容共抗日が 今事變を招いた

今、歩兵隊々正義をゆく軍艦の前、
つゝある支那。——莫大な国土の沃野を
無土と化せしめ、自ら黄河を決壊して罪
なき國民家を塗炭の苦しみの淵に沈め
ておられたものであつたか。——國府が
内政に専らしようとした容共抗日の限
つた。七月七日、事變一周年、こゝに當時の
支那の容共教育と抗日熱病、軍備狂奔の
全貌をあはかり。

不死!

〇 國共合作によつて煽動され、許
り出され九小學生宣傳隊、手に
手に「失地恢復」「不死支那
魂」ともの「レ」スローガ
をかかげて。

〇 亡國思想にあやつられ「抗日救
國」前線兵士隊員」の示威に參加
した支那女學生。

支那兒童は何を飲へられたか。
「日本は悪者だ、支那は大き
いがまだ闘い、東洋鬼がいちめ
金ひつくさうとしてゐる」と赤
ちは抱えねばならぬ」「と赤
色教育はこの通り、子供たちに
スコアの等閑者と同じ「赤色拳手」
をさせるまで至つた。



去る三月十二日、
遼陽十三層橋下漢口
で支那軍大勝祝賀大
行進が行はれた。民
衆は當時いまだ國府
デマ放散を信じ、抗
戦を絶叫した。抗
戦の大旗は赤色
に染められた。生
士死つたのは、

しろよかなかなるがい

勇浮的赤日



◎ 悠威堂ね具へる日本軍。一等、二等、三等—運動會の賞品を見れば、こゝは俘虜のパラダイス。

はかよりほんぐんぼに

做音節創我

◎ 元支那軍の勇士、今や白日のもとパン喰ひ競争のチャンピオンとなる。



◎ 皇威遍し。運動會の空腹へ白米の御馳走だ。捕虜の日課も又樂し。

◎ 抗日の悪夢はもうとうに消え去つてしまつた。二人三脚に興ずることの運動大會々場には蔣介石の演説も聞こへて來ない。



北京婦女 宣撫班

いま支那大陸の一角から、新政府の五色旗の下、新しい支那が建設への巨歩を踏み出した。
 思へば支那の民族は、永い歴史政府の腐敗と支那軍閥の権威に堪へ込んで来たものである。内亂の逐日に民衆を犠牲に奪はれ、掠奪、放火等の暴行の繰り返りがつづかれる。家を焼かれ、田畑は荒れ、食糧は乏しく、住むに堪なく、大火の熾に來るもの。過去幾度かの戦争の蹂躪から民族の精華、息子を奪ひし



たためらう支那民族は今事變にはあまりにも真つた眼を見た。入滅する危崖から昇へられたものは愚癡に代るに、遠い過去と繋ぎと繋ぎの手段であつた。斯る者には尊厳と愛を、愛するものには食料を、食料なきものは家と異へられた。皇軍の武威の下に皇の尊厳には挨拶がよみがへり、皇威には力強い復興が始つた。皇威から新しい平和が到來した。

「日本軍は無事の民族を敵とするものではない。我々を解放するために働つてゐるのだ。我々もだ」との呼びかけからともなく人々の心からこみ上げるやうによつて来た。皇軍は日に日に彼等の心の中に浸み込んでゆく。こゝに北京を中心として活躍する新生支那婦人の組織する宣撫班の活動を紹介しよう。





明通 州建 設

北京から垣々通州に連する通州街道も、皇軍と良民との協力で見違へる程立派に進歩が見え、初夏の風を切つて北京からのドライブがひと組ふた組と通ふやうになつた。

通州市街、右の崩れかけた城壁は惨劇の當時、逃げまどふ邦人の前に心憎くも立ちはだかつて多くの英霊を銃口に晒した。

事變前に倍加する邦人が、一年経つた今日殉難者の屍を越えて入つて来た。同時に倍加する明朝色にいつの間にか一蛇の目壽司の横顔やこぼれかたの看板が生れ出た。

悲しみも新たな殉難記念碑、假の木標に涙で書かれたあの頃の文字もひと歳前の風雨に濡れて来た。(仲内)



撮影
内閣情報部



仇を仁で返すのが宣撫班は通州城内の幼児全員に種痘を施した。皇軍は良民を病魔から守つてゐる。地下には支那兵の経路によつて洗された邦人の血が吸ひ込まれてゐるのに。

通州城内の中心商店街、樓門高く掲げられた明朝通州建設の文字の下道ゆく支那住民も安らげく朗かに、日本製の自轉車が風爽と走る。



二百に餘る同胞が鬼畜もたゞならぬ實業保安隊の手によつて建設された通州事業。懐ひ起すさへ悲憤の情に身ふるひを察し得ないその日が、近づいて来た。昨年七月二十九日、三時、俄かの銃聲に眼をさました通州の邦人たちは懐ひ来る兇徒が日頃信じ切つた保安隊なのにわれとわが眼を滅つた。

襲む我軍の守備兵は僅かに百人。千五百の兇徒に對し寸鐵なき邦人たちに、なんの防禦があらうぞ、たゞ恥知らぬ野蠻どもの荒れ狂ふに任すのみだつた。

浮月の間に無限の涙をのんで眠る殉難者の墓碑は、今も語る人の袖をしぼらせる。だが、肩を下つて市街に足を運ぶならば、そこには事變前に倍加する新な邦人たちが軒を並べ、恨みも癒しもしも拭き拭つて土地の支那人と手を握へ新しい建設に奮としてゐる。一州一が興してゐるのを見ることが出来る。

一明朝通州の建設一こそは尊き犠牲者の遺を慰むる唯一つの道だ、これが今、通州にある邦人たちの祈り案になつてゐる。



新支那の搖籃

新民學院



「大學の道は明德を明かにするに在り、民を新たにするに在り」新民の二字はこの中からとられた。楊柳の下を明潤清新な聲がひびいてくる。

北京の古い傳統の裡に打つて變つた新しいものが生れ出たその名も新民學院。この層根の下に未來の聲は息吹き、規律正しい起居が營まれてゐる。紳内はその實際の指導者、學生隊長岡分智也氏。

日語習得は日支提携に對する中國人の關心の最も端的なあらはれである。

防共親日、道義國家建設を目標として中華民國臨時政府は北支文化の中心地、北京に新民學院を今年一月から開設した。院長には先頃來朝した行政委員會委員長王克敏氏が自ら就任したが、新政府が積極的に新民主義の下に民主向上の使命を擔ふ中堅人物の養成を如何に大切と考へてゐるかは王克敏氏の意氣込方からも充分推察することが出来るのである。

新民學院學生は廿五歳から卅五歳までの大學卒業生の中から選抜されたもので三月で卒業するが、特に思想的に備らず、新政府の使命遂行に献身すべき強靱な精神の持主であることが要求される。

現在百名の學生は、王克敏、龔子木、龔、蕭川政治、龔等の諸氏を講師に、明日の更生中華建設に向つて奮立つ日を期し、日夜攻々とその大抱負を磨いてゐる。



午前授業が終つて食後の時間になつた。食堂に會した百人の青年たち、あと十日でもうこの食堂とお別れだ、中堅官吏として新民會員として、キがて近五色旗の下に社會へと第二の誕生が待つてゐる。

北京はすっかり真夏だ。教練の時間ランニングシャツ一枚でもカン〜汗が湧く。

立派な寄宿舎がある。わづか三ヶ月の生活だが、すべては新しい刺激と新しい希望に包まれてゐる。





世界の進歩と幸福のために、東洋の文化と福祉のために、眞の日支提携を女同志でも實現しようとする自由學園の羽仁もと子氏以下の教育先鋒隊により北京生活學校は今年三月創立された。北京生活學校は十五から十八までの中國少女を廿人收容、六人の指導者たちは今までどこでもやらなかつたやうなさまざまな新しい試み、新しい切つて賣りに移してゐる。

北京生活學校籌備處



これ、この學校に同居する北京の少女たちは、今日、日々新たに眞摯な生活の生活を探究してゐる。

内閣情報部

余北京市長の好意で借りた千坪もある庭園に、共に言葉を學び、共に生活を學び、共に技術を學ぶ、さア、これからだ。



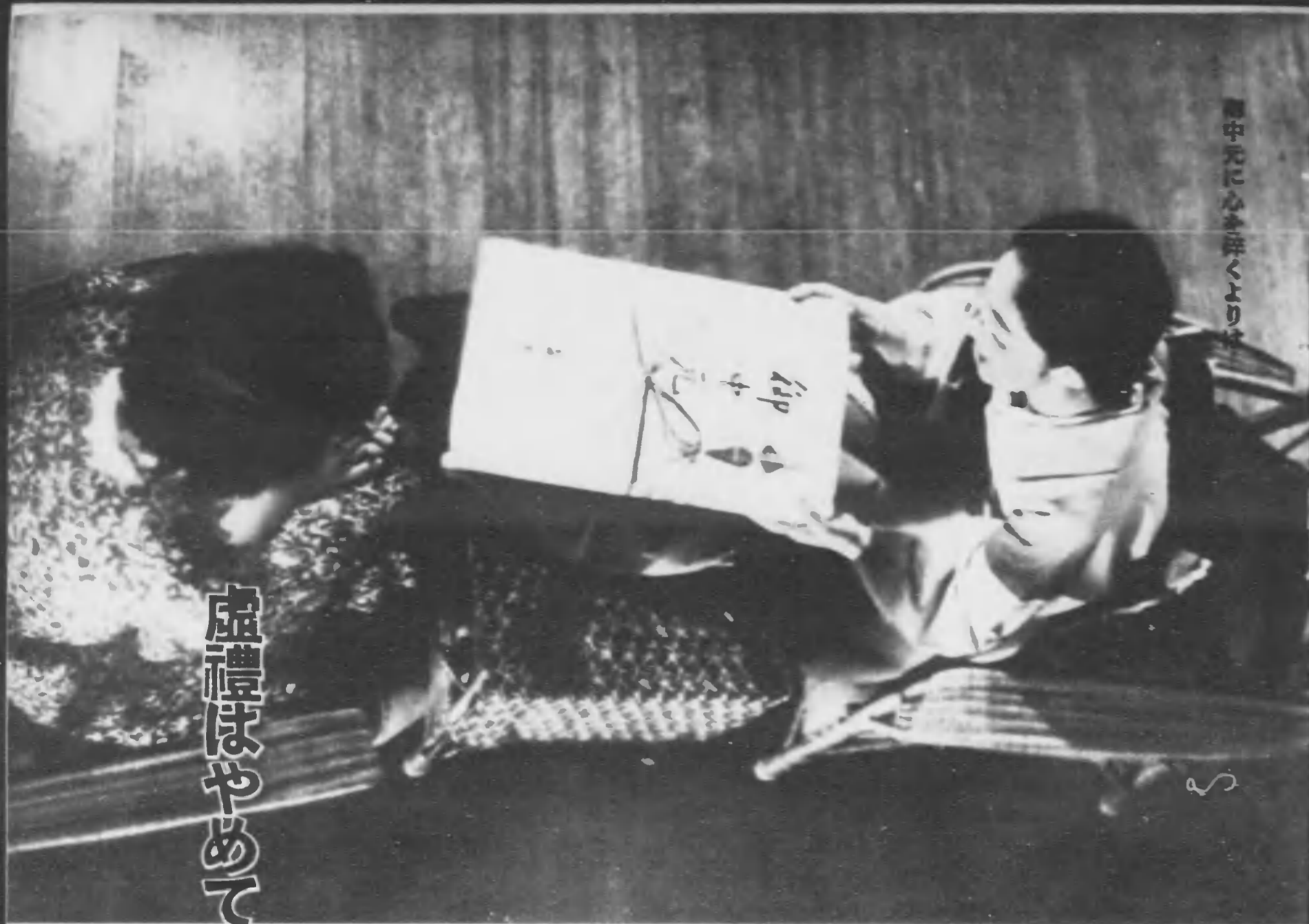
朝起きるのも、御飯が出来て食堂に集るのも大主婦が鐘をならして皆に知らせる。二十人の生徒大家族は四つのお家単位に分けられ、主婦以下、長女、次女とつく。



土曜、日曜が家に歸るだけで、あとはすべてこの家で自治の生活がくりひろげられる。お料理は一日廿餘、生徒が當番で買出し、ながら全部してゐる。内地なら、今までの習性で支那ではお金をすつかり

あつて買物をさせるなどといふことはすなわち分思ひ切つた試みなのだ。





陣中死に心を砕くより

虚禮はやめてみんなに贈る慰問品



戦地を想ひ七月七日は一菜で



こんな贅澤は

立派な武器器など 折れ釘も 七月七日 一戸一献納



4、5、6 層は現在製鋼の原料として年約三百二十万トンを生産する。鋼塊の消費割合は鉄鋼四割弱、銅六割強と云ふから層の占める地位は重大だ。またストロブ麻品、古茶銅等の物品は鉄鋼と混せて諸物品に再生され、或は弾丸製造にも用いられる。近年に於ける諸物品生産額約百五十万トンの原料推定額中鉄鋼約八十五万トンに對して層約六十五万トンも消費されてゐる。寫眞7層は鉄鋼と共に溶鑄機に入れて溶解し、(5)鑄型に流し込めば、立派な伸線が出来上る。(6)鐵工作業

7 かうして、空所の隅に、床下に投げ棄てられてあつた一握の古釘も、古鍋も、バケツも、生れ變つて精巧な機械の一部となり、凡ゆる種類の武器ともなりうるのである。

内閣情報部監修
「同盟映畫」
月報「から



1、2 穴のあいたバケツ、折れた釘、からしたものはこの家庭にも一つや二つはころがつてゐる。そのまじはうり出しておけば邪魔になるだけで何の役に立たぬ。これを献納しよう。献納すれば立派に再生されるのだ。

3 町會や、青年團の人たちの手で集められた物品は小学校の校庭に山と積まれる。こゝで層は鐵屑、銅屑は銅屑と選別されて、層物問屋に賣却される。かうしてその代金は、恤兵金となり、國防基金となり、また大陸の聖職に病み傷ついた傷兵保護の基金ともなり、賣却されたものうち、たとへば、層は精錬所に送られるといふわけ。

重要一年を最も有意義に迎へるための國民運動の一つとして、七月七日當日國民精神總動員中央聯盟が主催となつて一戸一品献納運動が全国的に行はれることになつた。今後、いよ／＼長期戦を覚悟しなければならぬ時、資源愛護の精神から全國民が持つてこの運動に参加しやうではないか。

果ゆ子シ
實てユラ
罐あーッ
話づきスフ

チヨロロト
キヤラメル
ビスケツト
ソエフア
下ロツプ
羊羹

とら御家庭でも大歓迎

明治の奇蹟

明治製菓株式会社

寫眞週報 週刊 週報

募集賞懸案圖一タスポ同合

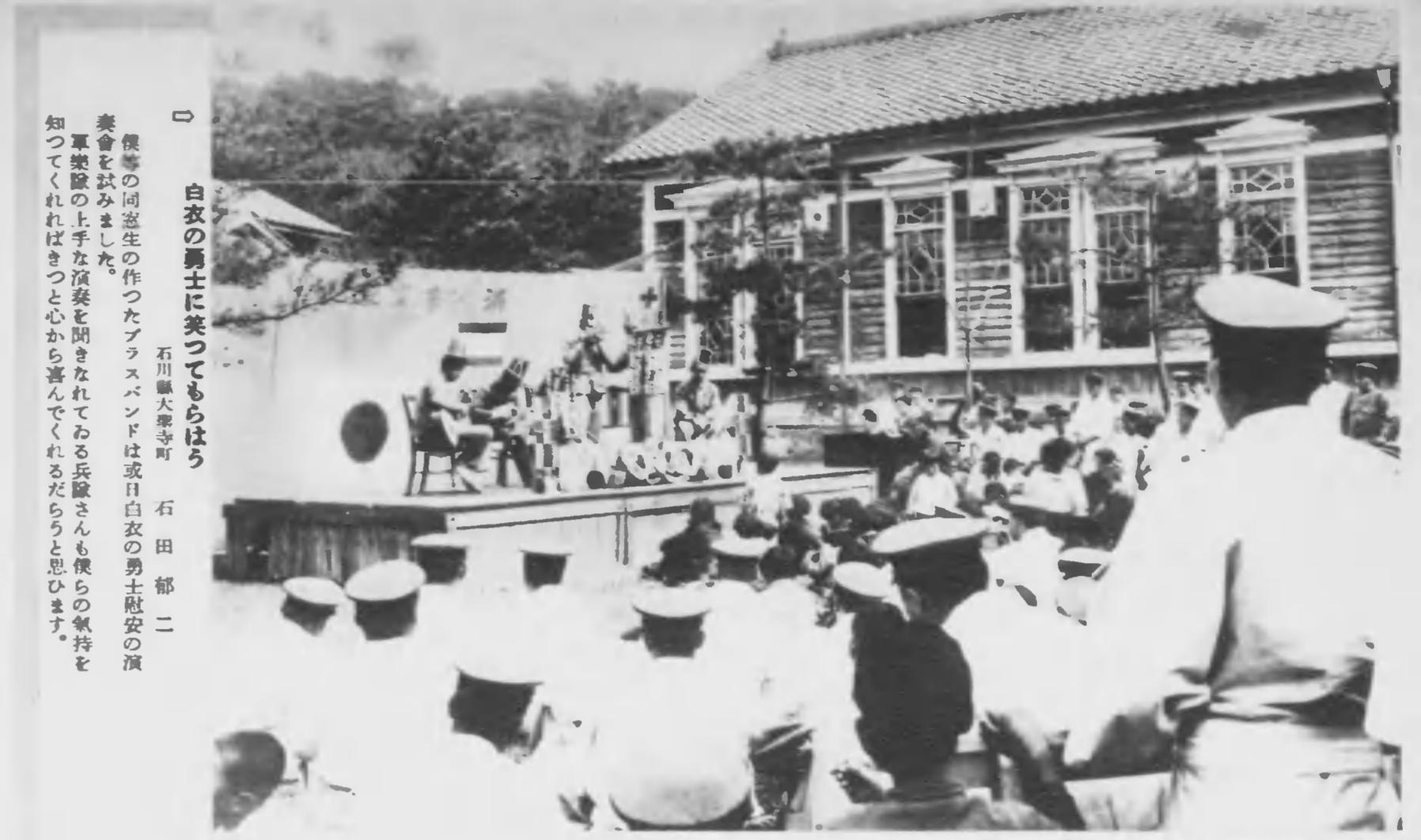
締切迫る

本誌及び「週報」が、内閣情報部から姉妹誌として編纂・発行されてゐることを、普及徹底させるため兩誌合同のポスターを左記規定により懸賞募集す。

規定

構圖……寫眞週報「週報」の宣傳を一枚にて表現するもの
 文法……内閣情報部編纂
 文字……同報のグラフィック
 「寫眞週報」一十枚
 「週報」一十枚
 日本標準規格判B1判(縦一〇三〇×横七二八耗)五色刷以下
 賞金……一等(一名)三百圓
 二等(一名)百圓
 三等(一名)五十圓
 佳作(十名)二十圓宛

（作品へ使用ニ際シ多少修正スルコトアルヘシ）
 審査……内閣情報部
 締切……昭和十三年七月十五日
 発表……同七月二十七日発行兩誌誌上
 （懸賞作品ハ一切返却セズ、且ツソレ専用ハ内閣情報部ニ送付ス）
 届先……東京市麹町区永田町内閣情報部大臣官舎内
 内閣情報部
 電話（東京）二六二二



白衣の勇士に笑つてもらはう
 石川縣大津町 石田 郁二
 僕等の同窓生の作ったプラスチックバンドは或日白衣の勇士慰安の演奏を試みました。
 軍隊の上質な演奏を聞きなれてゐる兵隊さんも僕らの氣持を知つてくれればきつと心から喜んでくれるだらうと思ひます。

讀者のカメラ

農務期託兒所
 東京市大森區 吉川一雄
 働きうるのは田へ畑へ、忙しい農村では子供連だけが家に寂しく残されてゐるので、神奈川県中郡相川村天宗寺では臨時にお寺を託兒所とし愛國婦人會と協力、毎日六十人以上の子供を無料で預つてゐる。これも銃後を運る農村の一風景。學童等の気味散呼の聲が野良に響く御父さんや御母さんの耳にひびけば仕事もぐつとはかどる。

夢刈り
 八王子市天神町兩角 正
 田植を目前に控へた農村では小学校の生徒等も、放課後のしばらくを、七八人宛一組となつて手の足りない農家の夢刈りの手傳ひをして居る。さつとさつと鳴る鎌の音は、僕等の勤務行進曲であり、肩にかつぐ麥の穂の重みは、僕等が荷ふ明日の日本のことを考へさせてくれる。



寫眞週報(禁複製)

昭和十三年七月六日印刷發行

發行所 内閣情報部
 印刷所 大日本印刷株式會社
 東京市牛込區市谷 加賀町一、二番地

所 込 申	價 定
寫眞週報配送部 東京市麹町区永田町 電話(東京)二六二二	一ヶ月(前金)四圓八十錢 <small>(送料不要!)</small> <small>(外購部にも依り)</small> <small>(郵は八圓九十錢)</small>
全国各地官報販賣所 東都書籍株式會社 最寄書店・譯賣店 各地新聞販賣所 寫眞材料店	一ヶ年分未滿配送御希望の方は一部十錢の割合を以て前金を添へ御申込み下さい

本誌は「寫眞週報」の一助にもと考へ、出来る限り紙面を開放し讀者のカメラを動員、優秀な技術を持つてゐる。題材は内外發、國策の宣傳に關するものなら何でもよい。例へば街にも田圃にも、或は工場、軍隊、學校など列る所迄運る戦後の奮ひ、國民精神の動向風景、或は季節と世相の面白い組合せなど何でもよい。一枚の寫眞でも數枚ひと組の組寫眞でもよく、締切日は決定せず、キスはキズを以て以上、掲載の分には複製又は紀念品を贈呈し版権は當部は一切返却せず。
 懸賞作品は一切返却せず。
 内閣情報部

表紙の軍服は今度新しく制定せられたものです。(撮影 木村伊兵衛)

写真週報

昭和十三年二月十二日 第三種郵便物認可 昭和十三年七月六日発行 (毎日) 即永隔日刊 (毎日) 第一一號

僕もポチもこゝろに元気です!!

戦線へ銃後の写真を送らせう
誰れにも親しめる自然の姿を —
このフィルムに

ネオパンクロ
ネオクローム



輝く國産いつも快調!

富士のフィルム

(本書の大きさは規定規格A・「週報」倍率)